



会 員 報

第47号 令和7年3月27日発行
(公財) 日本ソフトテニス連盟



(公財) 日本ソフトテニス連盟
会長 安道光二

ごあいさつ

会員報第47号を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。昨年、第17回世界選手権大会の男子国別対抗戦(団体)で3連覇を達成、世界ジュニア選手権大会では14種別中11種別で優勝という圧倒的な強さと活躍が見られました。2025年はアジア選手権大会、2026年には愛知県名古屋市でアジア競技大会の開催を控えており、本年は非常に重要な位置づけとなっております。これまで以上に羽ばたけるよう、皆様からのさらなるご声援を賜りますようお願い申し上げます。

会員登録に関する連絡事項

① 会員登録料の改定について

令和7年4月1日からの会員登録料は下記のとおりです。

会員種別	年間登録料
指導者・一般	2,000円
小学生・中学生	500円
高校生・高専・大学生	1,000円

② 令和7年度からの新会員登録システムについて

令和7年4月1日より、新たな会員登録システムを稼働することとなりました。将来的にはこの新システムの導入により皆様の負担を減らし、活用しやすいものになると考えております。利用者の皆様にはご面倒をおかけする場面もあるかと思いますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

③ 会員登録に関する留意事項・関連資料について

会員登録に関する詳細および各種資料についてはホームページに掲載しておりますので下記のページをご参照ください。

日本ソフトテニス連盟 会員登録・ログインページ https://www.jsta.or.jp/m_regist

日本ソフトテニス連盟創立100周年記念 シンボルマーク決定

■作品への思い

デザインコンセプトは
「これからもつなぐ、未来へ」

日本で生まれたソフトテニスという競技
日本ソフトテニス連盟が創立されて100年
歴史が激しく動いてきた100年



「ソフトテニスを広め、盛り上げていきたい」
100年前も今も、その思いは人とのつながりの中で絶えることなく受け継がれて
きました。100年前から変わらない思いがまた新たな未来へとつながってゆく…
ソフトテニスが世界中に広がり発展していくことを願いデザインされました。

■モチーフ

①「つながりと広がり」

つながった二つの円。これは人とのつながり(縁)を表している。
右に向かって大きくなることでソフトテニスの広がり、普及を表現している。

②「受け継がれる思い」

ボールが跳ね、二つの円をくぐらせることで、未来への変わらない思いが
受け継がれている様子を表現している。

③「100という文字」

100周年の100をベースとしたデザインにしており、右肩上がりにすることで
発展を表現している。

④「日の丸」

真ん中の円を赤色にして日の丸にしている。
ソフトテニス日本発祥のものであることを表現している。

■今後の展開

このシンボルマークは、各種記念イベントや公式グッズ、広報活動などに幅広く
活用される予定です。これを機に、より多くの方々にソフトテニスの魅力を伝え、
競技のさらなる発展につなげていきます。これから皆さんの身近なところでこの
シンボルマークを目にいただけることと思います。

会員登録料に関する 使途概要について(令和5年度)

会員登録料は、**競技性の向上** **国際性の向上** **大衆化の促進** **広報活動の強化** 等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、加盟団体(各都道府県、日本学生連盟、高体連、中体連)への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。登録料を原資とする事業は概ね次のとおりです。

競技性の向上

- ・選手強化事業(強化合宿、国際大会派遣等)
- ・競技者育成プログラム推進費
- ・大会開催地・地域大会への補助、大会表彰

国際性の向上

- ・国際普及活動
- ・国際連盟、アジア連盟との連携

大衆化の促進

- ・地域グループ育成費
(各都道府県へ一般登録料の20%還元)
- ・ジュニア育成費
(各都道府県へ小・中・高・高専登録料の還元)
- ・都道府県連盟事業への補助

広報活動の強化

- ・大会情報の発信
- ・動画配信
- ・ホームページ

傷害補償給付金

- ・給付金および関連事務費

その他

- ・日本学生連盟への還元
- ・高体連への還元
- ・中体連への還元
- ・各種積立金(普及振興事業等)
- ・会員登録事務費(手数料負担等)
- ・事務所管理費

競技性の向上	28.2%
国際性の向上	1.4%
大衆化の促進	20.5%
広報活動の強化	12.8%
傷害補償制度	0.4%
会員登録関係費	19.0%
その他	17.7%

使途概要

令和6年度 臨時評議員会 【議事録】

【Ⅰ】日時	令和7年2月16日(日) 13時00分 開会
【Ⅱ】会場	日本ソフトテニス連盟事務局
【Ⅲ】出席者	評議員:47名〔欠席:3名〕 理事:21名〔欠席:2名〕 監事:3名 オブザーバー:2名

1 開会

公益財団法人日本ソフトテニス連盟定款第23条第1項および第2項により、評議員の定数50名に対し、出席者が過半数を超え定数に達しており、評議員会が成立すること、リモート参加者とは映像や音声により意思疎通が図れる状況であるとの報告。

2 あいさつ

清水諭副会長より、日頃から日本連盟の活動に対する理解と協力に感謝が述べられた。重要案件である予算編成と事業計画をはじめ、多数の議題に対してご意見をいただきながら、会議のスムーズな進行にご協力いただきたいとの挨拶があった。

3 議長選出および議事録署名人の指名

公益財団法人日本ソフトテニス連盟定款第20条第2項により、出席した評議員の中から互選により議長は選任されるとの説明。群馬県の佐藤栄一評議員より栃木県の木所一典評議員の推薦があり、異議はなく、議長に選任。木所一典議長より、公益財団法人日本ソフトテニス連盟定款第24条第2項により議事録署名人が指名された。増木博一理事と青森県の工藤聡子評議員が署名人となった。

4 議決事項

第1号議案 会員登録料の改定について
昨年12月と今月2月に説明会を実施した。20年前より会員登録者数が減少。さらにコロナ禍の影響を受け2019年までの財政黒字を支えていた会員登録料が大幅に収入減となった。コロナ収束後も減少傾向に歯止めがかからず、2019年以前の収入状態に回復していない。今後も中学生の運動部活動地域移行によって登録者数の減少が加速すると予測される。従って、支出抑制および収入増加を図っているが、スポンサーの獲得等、大幅な収入改善には時間を要する。このままでは大会など諸事業の縮小も考えざるを得なくなる可能性が高い。この現状を踏まえ、小学生・中学生の会員登録料は長期的な登録者数の確保を目的とし未置きとするが、指導者、一般、高校生、高専、大学生の登録料は値上げを行う予定。

また、会員登録システムについても運用費の面から見直しを図るとともに利便性の向上を目指す。

このことについて事前に寄せられたものも含め、次の意見・質問があった。

- ・全国的な大会等に出場しない選手は登録のメリットを感じていない
- ・令和7年度の値上げは実施せず令和8年度からにしてはどうか
- ・会員登録料の値上げが原因で登録者が減少する可能性がある
- ・現行の登録システムが原因で赤字化しているのにその結果として値上げすることには抵抗がある
- ・登録システム自体を見直すことで支出を抑えられるのではないか
- ・中学生の登録者数の減少対策はあるのか

これに対し、日本連盟より次の説明があった。

- ・会員登録にメリットを感じていただけるよう日本連盟として何ができるか協議している
- ・ソフトテニスを通じて健康的な生活が送れることやソフトテニスの価値をアピールし、プレーすることにプライドを持っていただけるよう働きかけをしていく。
- ・大会等、統合が必要なものの絞り込みを検討している
- ・支出の対応策としては、マーケティングシステムを活用した更なるスポンサー企業の獲得に努める
- ・中学生の会員登録者数の減少対策については小学生も含めたセミナーの開催等、ソフトテニスのアピールにつながる取り組みを考えている
- ・会員登録システムの変更や会議のオンライン化による役員への旅費等の削減といったコスト削減には積極的に対応しており、今後も継続していく

【第1号議案の承認】

議長より第1号議案について諮られ、賛成多数により承認された。日本連盟は引き続き改善策を策定して進めていくこととした。

令和6年度 臨時評議員会 【議事録】

第2号議案 令和6年度第1次補正予算書(案)について

補正予算編成においては、前年度繰越金の反映、今年度助成金の内示や事業実施の状況など年度内事業の精査により補正を行う。助成金については、当年度に入ってからの内示のため、補正においては内示額を計上している。特定費用に関しては、決算状況より会計士と協議のうえ、予算外に積み立てるための計上を行う可能性がある。

【第2号議案質疑応答】

議長より第2号議案の質疑等について促されたが、質問等は無かった。

【第2号議案の承認】

議長より第2号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第3号議案 令和7年度事業計画書(案)について本連盟の公益事業は、「普及振興」「競技力向上」「国際振興」の3つを柱としており、それに沿って事業計画書が作成されている。新たにMission・Vision・Value(略してMVV、現在策定中)を加え、令和7年度事業を推進していく方針である。これらの公益事業を支えるものとして、「各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策」を提起する。作成にあたり各委員長・部会長に原案を用意していただき、運営本部にて内容を精査した。理事会にて承認を得て、評議員会に諮る。

【第3号議案質疑応答】

大会開催方法の見直しおよびベンチコーチの検討について質問があった。日本連盟からは現時点では明確な回答はできないが、酷暑の時期の大会などは早急に検討が必要と考えているとの回答があった。また、競技者育成プログラムの実施内容の見直しについて質問があり、現時点で委員会において検討段階であり、ある程度、目途が立ったところで説明を行う機会を設けるとの回答が伝えられた。他にアジア競技大会について、2026年まで競技種目として決定しているが、2030年のドーハ大会や2034年のリアド大会にソフトテニス競技が組み込まれるために現在、また今後の方針を含めて、どのような取り組んでいくのかという質問があった。これに対し日本連盟からは

2030年ドーハ大会に向けた運動を3月に始める予定であり、具体的には、韓国ソフトテニス協会とインドへ向かい、その3カ国でドーハの連盟に働きかけをする予定である。日本単独の活動では厳しい側面もあるため、韓国をはじめとする関係各国と協力をしながら力を入れていく方針であるとの説明がなされた。

【第3号議案の承認】

議長より第3号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第4号議案 令和7年度収支予算書(案)について第1号議案で承認を得た会員登録料での試算により計上している。新たな事業として、運動部活動地域移行対策としての大会開催や100周年記念事業等が挙げられる。また、ソフトテニスのプロモーションとして広報活動を重要視しており、今後に向け展開させていきたい。また、会員登録システムを変更することで、日本連盟側の手数料負担が減少見込みであるが、導入初年度ということもあり、新たな開発依頼などは起こり得ると考える。令和7年度事業の状況によって必要に応じ補正予算編成を行う。

【第4号議案質疑応答】

議長より第4号議案の質疑等について促されたが、質問等は無かった。

【第4号議案の承認】

議長より第4号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第5号議案 評議員の変更について

静岡県連盟より評議員変更の申し出があり、現在の小林正評議員に代わり漆畑勝之氏が推薦された。

【第5号議案質疑応答】

議長より第5号議案の質疑等について促されたが、質問等は無かった。

【第5号議案の承認】

議長より第5号議案について諮られ、賛成多数により承認された。



令和6年度 臨時評議員会 【議事録】

5 報告事項(業務執行状況、他)

(1) 100周年記念事業について

日本連盟が2024年で創立100周年を迎えるにあたり、次の100年に向けて人々が健康で豊かな生活を送ることができるとともに国際平和に貢献する組織であることを示すために日本発祥のソフトテニスを国内外へアピールすることを目的として、次の事業を行うことが説明された。

- ・DVDの作成
- ・記念論稿の編集・HPへの公開
- ・MVV (Mission・Vision・Value) および中期財務計画に関する公表
- ・指導教本の改訂
- ・100周年シンボルマークの作成
- ・記念式典の開催

(2) 特別委員会の設置について

下記の委員会の設置が報告された。

- ・登録人口問題対策委員会
- ・アーカイブ委員会
- ・全日本選手権大会実行委員会

(3) 「国際普及のため自己負担で海外派遣する場合の費用に関する内規」の廃止について
現状、活用例がなく、理事会で廃止が決定したため報告された。

(4) 令和6年度表彰者について

本部功労者、各加盟団体から推薦いただいている支部功労者および優良団体について報告された。

(5) 令和6年度ランキングについて

基準に則って決定した総合ランキングの選手名簿に沿って発表された。

(6) 令和7年度 大会日程および大会要項変更について

現時点での令和7年度大会日程一覧が発表された。また現在、7、8月の大会開催時期の調整を予定しているため、次年度開催地については記載していない。なお、次の大会において要項の内容に変更が発生している。

①アジア選手権大会日本代表予選会(参加資格の追加)

②全日本実業団選手権大会およびSTリーグⅡ(参加資格の基準変更)

③全日本小学生選手権大会におけるベンチコーチについて(参加資格の変更)

④全日本選手権大会の留意事項について(特別な事情により出場できなくなった場合の選手変更について)

(7) 技術等級認定基準について

技術等級取得を取りやすくすることを目的として変更されるものであり、令和7年4月1日より施行することが報告された。また、各地区大会の基準との整合性が取れていない箇所があるとの指摘があり、等級制度部会で引き続き検討し、周知することが説明された。

(8) 令和7年度全日本中学生クラブ選手権プレ大会について

大会要項に基づき詳細報告があった。なお、今回はプレ大会として実施予定であり、来年度以降の大会開催地や開催方法等については今回の実施状況を検証して決めていくこととした。

このことについて次の質問があった。

本大会の開催概要について今から公表しても問題ないか。今後、変更の可能性がある旨は考慮するが、各都道府県の中体連専門委員長に連絡して差支えないか。また、この大会は中学校の部活動としての参加は不可か。

これに対し、日本連盟より次の説明があった。

大会日程や会場について、各都道府県や市町村の中体連に案内することは差支えないが、詳細は大会要項が日本連盟のホームページにアップされてから確認をお願いしたい。また、参加資格は要項に記載されているとおり地域クラブを対象とした大会のため、中学校の部活動のとしての参加はできない。

(9) 国際審判員養成について

2026年度のアジア競技大会開催に向け国際審判員養成を行うことになり、4月に愛知県での開催を予定している。その他の詳細については都道府県連盟に発信する案内文書にて確認をお願いしたい。なお、国際審判員資格の取得者からコリアカップとアジア選手権大会に審判員を派遣予定であり、国際大会の審判を経験していただきたいと考えている。なお、人選については日本連盟で検討のうえ決定する。

令和6年度 臨時評議員会 【議事録】

(10) 倫理規程、倫理・コンプライアンス規程、内部通報規程、懲戒手続規程および競技者規程の改正等について

4月1日より施行される倫理規程および規程の改正、新たな規程について報告する。これらの規程を順守いただき、事案の発生時には加盟団体の関係者や調査対象者について事実調査ならびにヒアリング、報告書の作成を依頼するので協力をお願いしたい。なお、内部通報規程の内容については事前に周知するように定められており、通報を受けた後の流れ等フローチャートで示すのでご確認いただきたい。

(11) 会員登録システムについて

新システムの進捗(データの移行状況や操作テスト)、今後の予定、加盟団体への依頼事項や作業内容について説明があった。また、短期間での移行となり、加盟団体に負担をかける形となるが、利用しやすいシステムにすることで会員登録者の増加につなげていきたいと申し添えられた。これに対し、まだ確定ではない要素が含まれる状況下での実施は、現場に混乱を招くといった4月からの稼働に対する不安や懸念が示された。日本連盟としては万が一の場合を考えた説明のため不安を与えるような形になったが、管理会社とともに鋭意努力していくことが伝えられた。また、登録内容移行に伴う加盟団体の事務作業の一時的な負担増加について配慮が求められたが、日本連盟として財政状況が厳しく、現時点でどういった対応ができるかについては検討したいとの回答があった。

6 支部提案・質問等

(1) 会員登録料改定に関する提案・意見
第1号議案にて対応した。

(2) 中学生の会員減少に伴う還元金について
競技団体として中学生に対する支援や補助のため、日本連盟からの還元金の割合を上げることについて検討していただきたいとの要望があった。

7 その他

創立100周年記念事業における記念式典・祝賀会の開催が発表され、あわせて式典の翌日の6月22日に定時評議員会が開催することが報告された。

・100周年記念式典・祝賀会

日時: 令和7年6月21日(土) 15:00開始

会費: 20,000円(予定)

8 閉会

リモートによる会議は終始異常なく、全ての議決事項および報告事項が終了し、木所一典議長より円滑に会議が進行したことに対し謝辞が述べられた。また、安道光二会長より議事の進行に協力いただいたことへの感謝が述べられ閉会の挨拶となった。

令和7年2月16日 16時30分 閉会

以上

令和6年度 日本スポーツ振興センター 助成事業一覧

下記の事業については、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて実施いたしました。

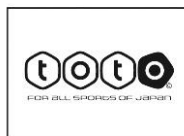
(単位:円)

基金助成		くじ助成	
事業名	助成額(内示)	事業名	助成額(内示)
JOCジュニアオリンピック大会 第31回全日本ジュニア選手権大会	1,200,000	アウトリーチ (①全日本小学生②全日本選手権大会)	1,521,000
		競技者育成プログラム (Step1~Step3)	40,292,000
第79回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本選手権大会	4,155,000	ドーピング検査	268,000
		スポーツ団体ガバナンス強化	900,000
計	5,355,000	計	42,981,000



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

スポーツくじ



100th
Anniversary
Japan Soft Tennis Association